

新型コロナ感染症対応で明らかになった米中の失策・失態
～求められるリーダーなき漂泊の時代への覚悟～

大貫啓行

新型コロナ感染症（COVID 19）パンデミックへの対応で米中両大国（国家及び指導者とりわけトランプ大統領と習近平国家主席）が被った国際的な評価失墜は明らかで、今後への影響が大きい。

中国は、武漢で発生した初期段階での対応（新たな感染症の発生とその感染力の強さなどに関する情報を隠蔽しようとした）の誤りという誰が見ても否定しようのないことを奇妙なすり替えでかたくなに否定し続ける情報工作に国家の総力を挙げ続けた。国際的に誰しも知っている事実をも無理やり否定するという無理筋を国家の総力を挙げて宣伝し続けたのだ。中国の異質国家としての存在を全世界に印象付けたのだ。

こうした異常な事態は、中国国内での情報統制による独裁統治という特異な状況に慣れ切って、自由な国際社会への理解力が失われているものとしか理解できない。

その後、統制力によって感染症押さえ込みに成功し諸外国への医療援助などの好感を持てる行為も自らの拙劣な情報工作（中国への感謝を強く求めるなど）によって割引いて受け取られる結果ともなった。評価感謝されることも自らの手で台無しにしてしまった。少なくとも、異質な国ということ自ら宣伝する結果となった。そうした世界の受け止めに理解することもできないというのも異常さを印象付けた。

感染症への対応を通じた中国の宣伝・売り込みは初期段階での情報隠蔽に対する中国への責任追及を逃れるための焦り。本質は、言論の自由、報道の自由のない中国指導者の国際世論への理解力のなさの故とみられる。

中国の国内での対応の良い点も、国際社会への医療物資支援なども、本来得られ他であろう評価や感謝すら得られないという結果になっていることへの理解力も、中国指導者には欠落しているのは気の毒とすら言える。自らが自らの評価を下げ続けている。

片や米国の失ったものが大きい。その最大のもは、国際的危機の発生に際して、米国は、リーダーとして国際社会をまとめる意思を持っていないことが明らかになったことだった。トランプ大統領の世界リーダーとしての意思と能力のなさは明らかになった。

自国第一というスローガンを掲げるトランプ大統領率いる米国は世界のリーダーとし

ての素振りすら見せなかった。

全世界は深い失望と共に米国の凋落を思い知らされたのだった。アメリカは世界の尊敬も失った。

それでもトランプへ恩岩盤支持者の割合が 4 割もいるというのも世界のアメリカへの失望を深めている。

ポストコロナの国際関係は、米中という大国のいずれもが指導者として失格を見せつけられたところから出発することになった。指導者も指導国もないという混迷の時代がいよいよ始まるのだということ。

特に、わが国は長い間の安全保障政策を中心とした国際関係でのアメリカ任せといった状況下にあった。それだけに戸惑うも大きい。そのアメリカがもはやリーダーとしての気概を失ったという事実の受け止めは容易ではないだろう。

わが国のとるべき道は明らかだ。国際協調を重視する国々と共に、米中に頼らない国際戦略の担い手としての覚悟をしなければならない。それこそわが国が国際社会で期待される役割というものだ。

国際協調こそが危機に対する唯一の対応策だ。国際協調を高く掲げる対外戦略は国際社会の大多数の支持を得ることは間違いない。自信を持って声をあげようではないか。

ピンチはチャンスでもある。

今求められているのは日本人の米国へのむなしい依存心をなくすことだ。